

調査結果の概要及び今後の取組について

みなべ町教育委員会

平成28年4月19日に実施された「全国学力・学習状況調査」の調査結果の概要及び今後の取組について、お知らせいたします。

この調査は、小学6年生と中学3年生を対象とし、「教科に関する調査」を、小学校は国語・算数、中学校は国語・数学の2教科について実施し、また、児童生徒の学習意欲や学習環境等を調査する「質問紙調査」も併せて実施いたしました。

本調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立し、また、学校における教育指導の充実や学習状況の改善に役立てるために実施したものです。

本教育委員会では、町内小中学校全体の調査結果の概要と今後の取組について広く町民の皆様にお知らせし、子どもたちの学力向上・学習環境の改善に向けて、学校、保護者、地域が一体となった取組を進めてまいります。ご理解ご協力をお願い致します。

1 教科に関する調査結果について

(1)平均正答率

小学校 第6学年

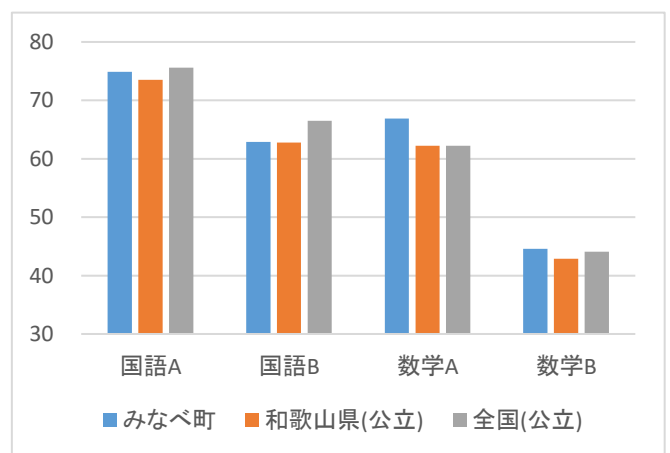
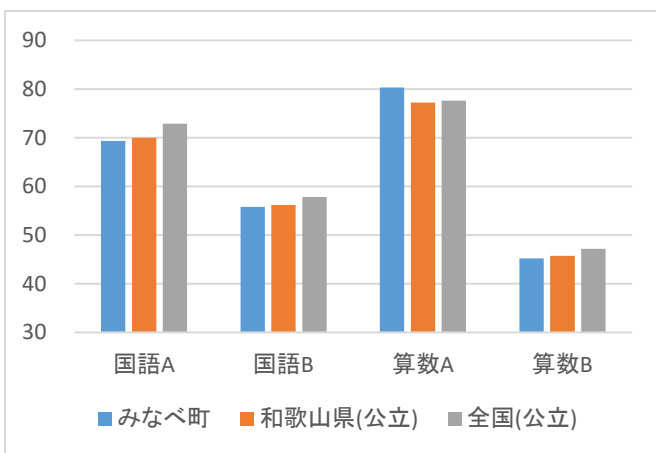
(単位：%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
みなべ町	69	56	80	45
和歌山県(公立)	70	56	77	46
全国(公立)	73	58	78	47

中学校 第3学年

(単位：%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
みなべ町	75	63	67	45
和歌山県(公立)	74	63	62	43
全国(公立)	76	67	62	44



※国語A、算数・数学A：主として「知識」に関する問題
 国語B、算数・数学B：主として「活用」に関する問題

小学校算数Aの平均正答率は、全国、和歌山県よりやや高くなっていますが、国語A・B、算数Bは全国、和歌山県より低くなっています。ただし、国語Bについては、ここ数年で一番全国との差が小さくなりました。

中学校平均正答率は、数学A・Bにおいて、全国、和歌山県より高くなっており、例年この傾向が続いています。しかし、国語A・Bについては和歌山県よりやや高いですが、全国より低くなっています。

(2)各教科の学習指導要領の領域別平均正答率

学年	小学校6年生		中学校3年生	
	国語A	国語B	国語A	国語B
学習指導要領の領域				
話すこと・聞くこと	▼	▼	—	—
書くこと	▽	—	—	▽
読むこと	—	—	—	▽
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	▽	—	—	—
教科				
学習指導要領の領域	算数A	算数B	数学A	数学B
数と計算/数と式	◎	—	○	—
量と測定/図形	▽	▽	◎	○
図形/関数	—	▽	○	—
数量関係/資料の活用	▽	—	○	—

<p>国語</p> <p>小学校は、昨年度に比べ全国より低い状況になり、特に「話すこと・聞くこと」の領域において課題が見られます。中学校でも、B問題の「書くこと・読むこと」において、全国より低い状況でした。小・中学校において、国語科の各領域において課題があります。</p>
<p>算数・数学</p> <p>小学校は「数と計算」の領域以外は全国よりやや低い状況になっています。中学校では、A問題においてすべての領域で全国より高くなっており、基礎学力の定着ができています。小・中学校において思考力や読解力の必要なB問題に課題が見受けられます。</p>

※ 小学校の領域名/中学校の領域名

- ◎ : 全国平均に比べ5ポイント以上高い
- : 全国平均に比べ3～5ポイント高い
- ▼ : 全国平均に比べ5ポイント以上低い
- ▽ : 全国平均に比べ3～5ポイント低い
- : 全国平均との差が3ポイント未満

(3)教科の概要

小学校

国語

◇漢字の読み書きがよくできていました。
 ◆ローマ字の読み書きの定着に課題がかなりあります。
 ◆目的や意図に応じて文章を書くことに課題がみられます。

算数

◇整数、小数、分数の四則計算ができています。
 ◆三角形の底辺に対する高さの関係、図形の角に関する問題に課題がみられます。
 ◆示された式や図形の意味を解釈し、それを記述することに課題があります。

今後の取組について

・ローマ字の読み書きについては、国語科だけでなく、他の教科領域でも取り扱い、児童が慣れ親しめるよう指導します。
 ・図形領域の理解が深まるよう、具体物を使い知識の定着を図るほか、図形についてイメージする力が養えるよう取り組みます。
 ・文章を正しく読み取り、目的や意図に応じた自分の考えを書けるよう機会を設け、思考力・表現力の育成に努めます。

中学校

国語

- ◇基本的な日常漢字の読みができています。
- ◆語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに課題がみられます。
- ◆図・表・グラフなど資料から情報を得て、本文のねらいや構成を考え、文章を書くことに課題があります。

数学

- ◇正の数、負の数、文字の式の計算ができます。
- ◇等式を変形したり、1次方程式を解くことができます。
- ◆比例・反比例・一次関数の増加量や関係の式、変域など、関数領域全般について課題がみられます。
- ◆与えられた式や図形について理解し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題があります。

今後の取組について

- ・読書を奨励し、文章に慣れ、多くの語句に触れる機会を作ります。
- ・関数領域の苦手分野を確認し、丁寧な指導に努め、復習の機会を定期的に設けるなど内容の定着に努めます。
- ・問題文を読み取り、目的や意図に応じ自分の考えを書く機会を設けるなど、思考力・表現力の育成に努めます。

2 質問紙の調査結果について

全国と比べ特徴的な結果の出ている質問について紹介します。

(1)「学校に行くのは楽しいですか」

「そう思う、どちらかといえばそう思う」を合わせると、昨年度に比べやや小学校で低くなり、中学校では高くなっています。

(単位：%)

楽しい			みなべ町	全国	差異
	小学校	中学校	84	86	▲2
			82	81	1

(2)「授業はよく分かりますか」

「そう思う、どちらかといえばそう思う」を合わせると、小学校・中学校とも国語は全国より低くなっており、数学は全国より高くなっています。また、昨年度より小学校国語の数値が低くなっています。

(単位：%)

よく分かる			みなべ町	全国	差異
	小学校	中学校	76	81	▲5
			83	80	3
			68	74	▲6
			71	69	2

(3)「勉強や読書は好きですか」

「そう思う、どちらかといえばそう思う」を合わせると、小・中学校とも、国語や読書への興味がかなり全国より低くなっています。国語力向上のためには、まず活字に親しむ事が大切です。

(単位：%)

好きである			みなべ町	全国	差異
	小学校	中学校	43	58	▲15
			66	66	0
			64	75	▲11
			43	60	▲17
			53	56	▲3
			62	70	▲8

(4)「ふだんどのくらい勉強しますか」

平日において、小学校・中学校の両方で「1時間以上」勉強する児童・生徒が昨年度より減り、全国との差がより広がりました。ただ、「全くしない」生徒の割合は全国より少なくなっています。

休日は、小学校で「1時間以上」の児童が昨年度より15%増え、「しない」と答えた児童も16%減り、まだまだ全国との差はありますが、家庭学習の習慣が身につくにつあります。中学校では、昨年度より「1時間以上」が10%減り、勉強時間が少ない傾向にあります。

(単位：%)

ふだんの勉強時間			小学校			中学校		
	時間	みなべ町	全国	差異	みなべ町	全国	差異	
		平日	1時間以上	51	63	▲12	62	68
	1時間未満	47	35	12	35	27	8	
	しない	2	3	1	3	6	3	
休日	1時間以上	46	57	▲11	56	68	▲12	
	1時間未満	43	33	10	33	21	12	
	しない	12	10	▲2	11	11	0	

(5)「平日どのくらい時間を使っていますか（テレビ）（ゲーム）（インターネットやSNS)について」

平日の家での過ごし方については、小学校・中学校の両方でゲームを「2時間以上」する児童・生徒が全国より多く、特に小学生の割合が多くなっています。また中学校では、全国より低いものの、ネットやSNSに時間を使う割合も多くなっています。

学習時間を多くするためには、家での過ごし方を見直す必要があります。

(単位：%)

平日の家での過ごし方		小学校			中学校		
時間	みなべ町	全国	差異	みなべ町	全国	差異	
テレビ・動画	2時間以上	47	57	10	47	49	2
ゲーム全般	2時間以上	40	30	▲10	37	35	▲2
ネット・SNS	2時間以上	9	10	1	29	30	1

(6)「将来の夢や目標を持っていますか」

「そう思う、どちらかといえばそう思う」を合わせると、小学校は全国とほぼ同じですが、中学校では全国より低く、昨年度と比べても低くなっています。

(単位：%)

持っている			みなべ町	全国	差異
	小学校		84	85	▲1
	中学校		62	71	▲9

今後の取組について

小学校・中学校とも国語に大きな課題が見受けられます。国語以外の教科でも「考えを書く・まとめる」取り組みを多くし、国語力向上を学習全般の問題としてとらえ、改善に努めます。また、今年度より各小学校に導入した学校司書の活動を通じ、学力の基礎となる読書活動をより進めていきます。

家庭でのゲームやネットに費やす時間について、児童・生徒・保護者に呼びかけ、学習時間を確保できる家での過ごし方を啓発していきます。

各学校は、子どもたちが、「意欲的に学び・確かな学力がつく」授業づくりに取り組み、今後とも、子どもたち一人ひとりが輝く学校づくりを進めてまいります。